

九大病院だより

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

遺伝子治療 について

遺伝子治療とは、バイオテクノロジーの技術で病気の治療に効果がある遺伝子を患者さんの細胞や組織の中で働かせて病気を治そうとする、これまでとは全く違った治療法です。遺伝子治療は元来、遺伝的な難病を治す方法として開発が進められてきましたが、現在は悪性腫瘍、自己免疫病、血管病ならびに代謝病などに対しても用いられようとしています。遺伝子治療で治療できる病気はまだまだ少ないのですが、今までの薬剤では達成できない「長期間持続する高い治療効果」が期待されています。遺伝子治療がはじめて患者さんに対して行われたのは1990年、米国でのことでした。この患者さんは生まれつき免疫力がなく生後すぐから無菌テント生活をしなければならなかったのですが、遺伝子治療により無菌テントから開放され、通学もできるようになりました。その後一部の悪性腫瘍に対しても、抗がん剤と同程度の効果が遺伝子治療により得られることもわかってきました。一方、ベクターによる重い副作用が発生したとの報告が最近欧米からありました。したがって遺伝子治療ではその安全性と有効性について患者さんの尊厳を守りながら、慎重かつ円滑に医学的な検討を行っていくことが必須であります。遺伝子治療は将来的に多くの難病に対する新たな治療法となることが世界中で期待されており、今後も着実に医学研究を重ねていく必要があります。九州大学病院でもこれから多くの遺伝子治療法が開発されていくものと考えられ（下記）、皆様の益々のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

九州大学病院で計画されている遺伝子治療臨床研究

- 1) 慢性重症虚血肢（閉塞性動脈硬化症、パージャー病）に対する血管新生遺伝子治療臨床研究（責任者）第2外科・前原喜彦教授
- 2) 動脈硬化性疾患に対する遺伝子溶出型ステントを用いた血管再狭窄予防遺伝子治療臨床研究（責任者）循環器内科・江頭健輔講師、砂川賢二教授
- 3) 悪性腫瘍に対するGM-CSF遺伝子を用いた免疫遺伝子治療臨床研究（責任者）先端分子細胞治療科・谷 善三朗教授
- 4) 難治性小児固形悪性腫瘍に対する新規ベクターを用いた免疫遺伝子治療（責任者）小児外科・田尻達郎講師、水田祥代教授



コラム

ストレスの仕組みと対処

私達は、学校、職場、家庭などの生活環境によって、さまざまなストレスを受けています。また、児童、思春期、青年期、成人期、老年期などの各ライフサイクルに応じたストレスも受けています。ストレスに対する反応は、ストレスの強さや持続時間と受け止める側の心理的、身体的要因によって異なります。ストレスによって様々な体の反応や感情の反応が起こります。体の反応は、神経・内分泌・免疫系の反応と、各臓器に特有の反応が起こり、その結果、精神状態にも影響を及ぼします。また、ストレスによって起こる不安、抑うつ、怒り、悲しみなどの精神状態は、身体状態にも影響を及ぼします。適度なストレスは、心身の抵抗力を高めることもあります。しかし、大災害にみられ

くぼ ちはる 心療内科教授 久保 千春

MESSAGE from Ciharu Kubo



るような多くの強いストレスが一度にきたり、長時間持続するような場合は、さまざまなストレス病が生じます。ストレスはまた、食事、睡眠、運動、休養などの生活習慣にも影響を及ぼし、生活習慣病をひきおこします。さまざまなストレス病を生じさせないためには、ストレスを長引かせないことが重要です。その方法として視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚などの五感による刺激を与え、自分に応じた気分転換を図る工夫を身につけることです。また100%ではなく70%ぐらいを目指す、過剰適応でもなく不適応でもないような対人関係のバランス、今ここを大事に、などの日常生活での考え方も大事と思われる。

平成15年10月の九州大学3病院合併に伴い、私たち先端分子・細胞治療科は別府の九州大学生体防御医学研究所附属病院・体質代謝内科の名前を改め、福岡地区へ移動して参りました。私たちの科は治りにくい病気、特に悪性腫瘍（癌など）に対する新しい治療法を開発することを第一目的にしています。そのために九州大学病院内のいろいろな科と連携して、日本で初めて行われるような新しく効果的な治療法を、患者さんのご協力を得ながら作り上げる努力を積み重ねてきています。特に免疫細胞療法や遺伝子療法などの新しい治療法の開発に重点をおいた臨床研究（新しい治療法が安全で有効であるかを患者さんの尊厳と人権を守りながら円滑に検討すること）を実施させていただき、その治療法が安全で有効であることが分かれば、いち早く他の多くの患者さんに還元してゆこうと考えております。免疫細胞療法とは、患者さんの血液から取り出したリンパ球などを培養して、癌に対するより強い効果が出る状態にして患者さんに戻すもので、副作用が少ないのが特徴です。また、遺伝子療法とは、遺伝子を患者さんの細胞または組織に人為的に入れ込むことで従来の治療法では得られなかった治療効果を得ようとするものです。もちろんこれらの治療はまだ一般医療にはなっていないため、患者さんに十分にご説明をさせていただき、ご同意を得た後に行っております。私たちの診療内容についてご興味がある方は、御気軽に当科外来を御受診ください。

新患外来は平日の毎日9時から11時までです。

（先端分子・細胞治療科 TEL:092-642-5996 科長 谷 憲三朗 医局長 牟田 浩実）

生活習慣病とくに糖尿病の予防と 血管合併症の克服を目指して

日本は少子高齢化社会の真只中にあります。老後に寝たきりにならず質の高い元気な生活を迎えるため、現在日本で激増しています生活習慣病、特に糖尿病の予防と血管合併症の克服が極めて重要であります。

日本ではこの50年間、食生活の欧米化(高脂肪食)と自動車によるライフスタイルの変化と多因子遺伝により、厚生省の2003年の実態調査で、糖尿病患者さんは740万人、その予備軍は880万人で、この5年間でそれぞれ50万人、200万人の増加を認めています。

予備群である食後高血糖により心筋梗塞の発症率が高いことが証明され、予備群への介入も重要になります。

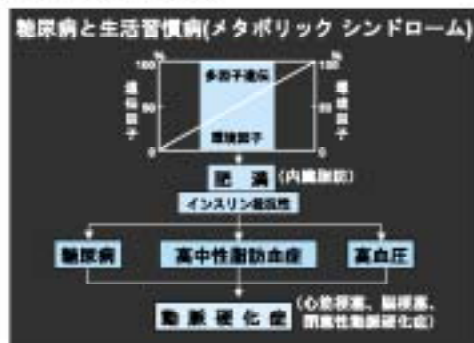
多施設大規模試験により血糖の厳格なコントロールにより、細小血管合併症である糖尿病性網膜症、腎症と神経症の発症、進展を確実に抑制でき、失明、血液透析を予防出来ることが実証されています。

更に糖尿病、肥満、高中性脂肪血症、高血圧の生活習慣病（メタボリックシンドローム）は相乗的に作用して、脳卒中、心筋梗塞を発症進展させることが明らかにされています。

すなわち心筋梗塞、脳卒中を予防するためには、糖尿病のみならずこれら生活習慣病のトータルケアが極めて重要になります。

この医系キャンパスでは21世紀COE「大規模コホートスタディによる生活習慣病の研究教育」の中で糖尿病を中心とした生活習慣病のゲノムレベルよりの予防と先端医療を目指した研究を進めています。更に糖尿病患者さんの50%の方が治療を受けていない現状を重視し、九州大学病院と西日本環境エネルギーの方々や糖尿病患者さんの治療を支援するカルナプログラムを進めています。

九州大学大学院医学研究院特任教授 名和田 新



「読んだことがない」が
35%...

九大病院だより アンケート調査の結果

平成16年11月初旬から平成17年1月下旬にかけてアンケート調査を実施しました。

アンケートの結果は、回答総数は約600人。男女の比率は、ほぼ同数であり、年齢別では、60歳代がトップで約28%を占め、全体として50歳代以上の年配の方の回答が目立ちました。「病院だよりを読んだことがない。」との回答が約35%を占め、また、「置いてある場所を知らない。」との回答が約50%もあり、だよりの周知徹底の必要が湧きます。

記事の内容は、「おおむねよい。」の回答であり、

発行を2カ月に一度行っていることも「おおむねよい。」とありました。月に1度の発行を望む声も多く、検討を行いたいと考えています。掲載して欲しい主な記事は、現在研究している高度先端医療の内容や診療科・医師の専門分野、さらに病気・医学用語の解説、院内の施設案内等で、今後の病院だより作り参考にさせていただきます。今後は、このアンケートに寄せられた貴重な声を十分踏まえ、患者さんや、その家族の皆さんにお役に立つ紙面作りを考えていきます。

愛の図書室ボランティア



原 安 子

「何冊まで借りて良いですか?」「何冊でも良いですよ、毎週火曜日にしか開けていませんから」こんなやり取りで今日も図書室がオープンしました。

病院の要請で始まったこの図書室も、今年で17年目を迎えました。明るくて広い部屋に移り、車イスの方も利用しやすくなったようです。

患者さんの身になって、より簡単な手続き、返却日もあまり厳しくしない等をモットーに、明るくて暖かい雰囲気作りに励んできました。患者さんと私達ボランティアで作る

「愛の図書室」です。

皆様どうぞ気軽にお立寄り下さい。



「愛の図書室」ボランティア活動風景

波津久 凱 子

入院、通院中、本を読みたいけど難儀で・・・という方に、本に替わる楽しみはないかと、「愛の図書室」の貸出日に、録音テープとCDの貸出しもしています。

小説、随筆、童話、歌集、他、プロとボランティアが録音したカセットテープ350タイトル、CD60本ほど、少しでも広い内容をとっていますが、著者の許可をいただいた本の録音と寄贈のCDなので、皆様のご希望にはまだまだです。

本と同様、軽く楽しめるものが喜ばれて、推理もの、時代もの、エッセイなどよく聴かれています。将来は音楽や落語のカセット、CDが揃えられたら、もっと充実できると思いますが・・・では、火曜日、ご利用をお待ちしています。

九大病院別府先進医療センターで 始まった高度先進医療

～樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いた癌ワクチン療法～

大分県別府市にある九大病院の一つ九大病院別府先進医療センターでは、その名前が示すとおり、高度先進医療を実施することを心がけています。

癌の治療、特に進行癌、再発・転移した患者さんで癌を手術で取り除くことができない場合治療が難しく、抗癌剤・放射線治療が行われます。それらをたくさん受けても癌が完全に消滅することは困難です。そこで、新しい治療法の開発が期待されていました。

わたしたちはこれまで九大医学部倫理委員会の承認を受けて、新しい治療法を開発しました。これは、癌細胞だけを攻撃するワクチン、つまり癌ワクチン療法と呼ばれます。これまでは、臨床研究という形式で主にワクチンが安全に行われるかということをおこなわれてきました。

平成17年1月、このワクチン療法が厚生労働省から「高度先進医療」として承認されました。つまり、普通の手術や抗

癌剤、放射線治療と同じように安全に行うことができ、かつ効果が出るのが期待されると判断されました。

この癌ワクチンには特徴があります。癌だけを攻撃するために、癌細胞に目印がないと治療ができません。また、ワクチン成分を合成するために、血液型が合わないといけません。現在適応を受けたのは、食道癌、胃癌、大腸癌です。この病気で治療を受けていらっしゃる患者さん、一度ご連絡をいただけたら詳細をご説明させていただきます。

担当：外科専門診療科 田中文明までご連絡下さい

(メール fumi@beppu.kyushu-u.ac.jp)

外科専門診療科へのお問い合わせは、

電話0977-27-1600(代表)へ

詳細はホームページ

(http://www.mib-beppu.kyushu-u.ac.jp/MIB_hosp/oncological_next1.htm)

をご覧ください。

※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記係へお問い合わせ願います。

ホワイトニング外来 について

ホワイトニングという言葉を目にしたことはありませんか？

ホワイトニングには、お肌を白くする美白(美肌)もありますが、歯科医療センターでは歯を白くするための歯のホワイトニングを行っています。

歯の色に関する悩みには、黄ばみがちょっと気になるというものから、ほとんどの歯が強く変色しているというものまであります。また、金属の被せ物の色が気になるので「週末の結婚式に間に合うように何とかして欲しい」という要望もあります。

治療法は変色の原因や程度、歯の神経が取ってあるかどうかなど、さまざまな条件によって変わってきます。歯を全く削らずに白くする漂白法、歯の表面にマニキュアを塗るようにして白くする方法、歯の表面を少しだけ削ってコンタクトレンズをかぶせるように薄い焼き物を貼付ける方法などいろいろあります。このうち、漂白法には、病院で行う方法(オフィスホワイトニング)と自宅でのんびりしながら行う方法(ホームホワイトニング)があります。これらの治療を行う前には、歯ぐきの炎症をチェックしたり、むし歯の治療を済ませておくことも大切です。

ホワイトニング外来では、色調の問題だけでなく、金属アレルギーを避けるために詰め物に金属以外の白い材料を使う治療も行っています。

歯の色が気になっている方、歯をより白くしたいという希望をお持ちの方は、是非一度ご相談下さい。

歯内治療科 ホワイトニング外来(TEL 092-642-6430)吉嶺嘉人



ホワイトニング前



ホワイトニング後(上の歯だけ)

お知らせ

広報モニターの 募集

より良い医学、医療を目指して本院は、広報モニターのボランティアを募集しています。1年に6回発行している「九大病院だより」や九大病院HPなどの広報について、皆さんのご意見、ご感想およびご提言を寄せていただく仕事です。「九大病院だより」を郵送しますが、官製はがきを同封しますので広報に対するご意見などを書いて送っていただけます。モニターのご希望の方は官製はがきに住所、氏名、年齢のほか九大病院へのご感想を書いて、福岡市東区馬出3-1-1(〒812-8582)、九州大学病院総務課広報室までお送りください。申し込み多数の場合は広報委員会で選考して選任します。(お問い合わせ:092-642-5206)

外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。
(市外局番は「092」です)

階	科名(電話番号)	初診日	再診日	階	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1	総合診療部 (642-5300)	月~金	月~金	1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金	救急部受付	642-5873
	内科(初診) (642-5300)			1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	時間外受付	642-5163
	内科(再来) (642-5302)	月~金	月~金	2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・ 金	月・水・ 金	総合外来受付	642-5138
1	臨床遺伝医療部 (642-5421)	月 ~ 金	金	2	心臓外科 (642-5565)	月 水 木	水 木	入院受付	642-5149
1	先端分子細胞治療科 (642-5996)	月~金	月~金	2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	公費申請受付	642-5167
2	心療内科 (642-5335)	月・木	火 水 金	2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	火 木	地域医療連携室	642-5165
2	神経内科 (642-5349)	火 水 金	月 水	2	泌尿器科 (642-5615)	月~金	月・水・金	支払い窓口	642-5169
2	循環器内科 (642-5371)	月~木	月 水	1	精神科神経科 (642-5640)	火 木	月 ~ 金	リハビリ受付	642-5862
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火 水・金	1	眼科 (642-5660)	月・水・金	月 ~ 金	医療相談	642-5914
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月~金	2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	火 木	月 水 金	在宅療養指導室	642-5185
2	周産母子センター (642-5900)			1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月~金		
2	小児科 (642-5430)	月~金	月~金	2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1	先端医工学診療部 (642-5993)	月~金	月~金	別館	歯科医療センター (642-6268)	月~金	月~金		
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12/29~1/3)
- 受付時間(窓口)
8:30~11:00
自動再来受付機
8:15~11:00
- 外来玄関開閉時間
7:00~18:00

注

- 予約がある場合はこの限りではありません。
- 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

(代表) 092-641-1151

〒812-8582
福岡市東区馬出3丁目1番1号



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができません。

ご意見・ご感想を電子メール(ibs_koho@jimu.kyushu-u.ac.jp)
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております!